

第4期中期目標・中期計画進捗状況 自己点検・評価（令和4年度）

<b>中 期 目 標</b>	<p><b>II 業務運営の改善及び効率化に関する事項</b></p> <p><b>【11】</b> 内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。②</p>
----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画	計画の実施状況等
<p><b>【11-1】</b> 本学のガバナンス体制をさらに強化するために、教職員のコンプライアンスに対する意識を向上させる研修等を継続的に実施する。また、ガバナンスコードへの適合状況等の確認及び監査等を実施し、実施結果等を本学の機能強化に繋げることで、法令等に基づく業務の適正な運営を確保する。</p> <p>評価指標 <b>【11-1-①】</b> ガバナンスコードへの適合状況等の確認、監査結果等の反映、研修等の実施及びこれらの学内外への公表を継続的に行う</p>	<p>○教職員のコンプライアンスに対する意識を向上させるため、令和4年6月に情報セキュリティ定期講習を実施したほか、令和5年2月に個人情報保護研修を実施した。</p> <p>○ガバナンスコードへの適合状況等を確認し、令和4年7月に経営協議会、令和4年9月に役員会において審議の後、令和4年10月に公表した。また、監事からの提言を踏まえ、人事計画の策定や内部統制に関する規則を制定し、大学ホームページにて公表した。</p> <p>○会計監査の他、保有個人情報の管理や法人文書の管理に関する監査を行った。</p>
<p><b>【11-2】</b> 大学の経営機能を強化するため、顧問制度等を活用し、学内外の専門的知見を有する者が参画した法人経営体制を整備・運用する。</p> <p>評価指標 <b>【11-2-①】</b> 顧問制度等を活用した経営改善プランを策定し、当該プランに基づく法人経営を行う</p>	<p>○学長補佐に学長特命事項を与え、進捗状況を共有する学長特命連絡会を開催した。令和4年度は、計11回開催し、「大学院志願者増の施策」「休退学対策」「地域教育・連携」「卒業後の進路（就職・進学）」に関して議論を行った。</p>

中 期 目 標	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>【12】大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②</p>
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画	計画の実施状況等
<p>【12-1】施設 IR(Institutional Research)によるエビデンスをベースとした分析に基づき、教育研究に係る施設の有効活用を推進し、共創の拠点を整備する。また、低炭素社会の実現に向けて環境保全対策や省エネルギー対策等を実施する。</p> <p>評価指標</p> <p>【12-1-①】施設等の利用状況を把握・分析し、共創拠点となる施設・設備の割合を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる</p> <p>【12-1】施設 IR(Institutional Research)によるエビデンスをベースとした分析に基づき、教育研究に係る施設の有効活用を推進し、共創の拠点を整備する。また、低炭素社会の実現に向けて環境保全対策や省エネルギー対策等を実施する。</p> <p>評価指標</p> <p>【12-1-②】北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）ステップ2を維持する</p>	<p>○令和4年度に改修工事が終了した地方創生研究開発センターに、アライアンスラボのスペースを確保し共創の場として利用する予定であり、共創の場を200㎡確保した。</p> <p>○上記をはじめとした取組みにより、令和4年度における共創拠点となる施設・設備は254m<sup>2</sup>（目標値：280m<sup>2</sup>）となっている。</p> <p>○平成21年3月に取得した「北海道環境マネジメントシステム（HES）」ステップ2（ISO14001の規格を基本としている）を維持するため本学が制定した「HES環境マネジメントマニュアル」に従って環境改善活動を行った。</p> <p>○令和5年2月にマニュアルの実施状況の自主点検を行った後、自己評価委員会を開催した結果、令和4年度に実施した環境負荷低減に関する講演会の実施が良い評価を得られた。</p> <p>○令和5年3月に定期審査を受審し、認証・登録の継続に問題がないことを判定委員会に報告し、HESステップ2を維持した。</p>

【12-2】地域の施設・設備の高度化の好循環を実現するため、地域、自治体、企業等が施設・設備等を有効活用できる体制を整備・運用するとともに、地域・大学の人的・物的資源の共有・融合による共同研究や委託研究等を充実させる。

評価指標

【12-2-①】連携対象企業・自治体からの投資実績（共同研究、受託研究、学術指導）を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる（1-1-①再掲）

○「アシル-トイタによる心と体に響く新しい食の価値共創拠点」が令和4年度の国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野育成型に採択され、北海道白糠町と共同研究を開始した。

○上記をはじめとした取組みにより、連携対象企業・自治体からの投資実績は222,047千円（目標値：135,061千円）となった。

中期 目 標	<p>Ⅲ 財務内容の改善に関する事項</p> <p>【13】 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。②③</p>
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画	計画の実施状況等
<p>【13-1】 ビジョンや IR データ等と連動した中期財政計画（10年）を新たに策定するとともに、中期財政計画に基づき、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策の実施と学長裁量経費などの重点投資を充実させる。</p> <p>評価指標</p> <p>【13-1-①】 令和4年度までに新たな中期財政計画（10年）を策定し、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策並びに重点投資を特定し、計画的に実行する</p>	<p>○ 令和4年度に中期財政計画を策定すべく財政シミュレーションに着手した結果、既存の収入、支出状況の把握に加え、近年の物価高騰や光熱費増加の対応及び施設設備の更新に係る減価償却引当特定資産への対応といった課題が生じたため、令和5年度中に中期財政計画を策定することとした。</p>

<b>中 期 目 標</b>	<b>IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項</b> <b>【14】</b> 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。⑭
----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画	計画の実施状況等
<b>【14-1】</b> エビデンスベースの法人経営を実現するために、学内情報資産のIT化(デジタル化)を推進し、IRデータの蓄積・分析プラットフォームを構築する。これらのデータと、外部有識者などの専門的知見を活用し、客観性と外部性を確保した自己点検・評価マネジメントを実施する。  評価指標 <b>【14-1-①】</b> IRデータの蓄積・分析プラットフォームを構築し、エビデンスに基づく自己点検・評価を継続的に実施する	○統合データ基盤 (IRデータの蓄積・分析プラットフォーム) の環境を構築した。  ○評価分析室を7回開催して中期計画の進捗状況を点検し、令和5年1月の企画戦略会議において審議した。
<b>【14-2】</b> ステークホルダーの法人経営に対する理解・支持を獲得するために、多様なステークホルダーに対して、多様な広報媒体を活用し、積極的に情報発信を行うとともに、ステークホルダーとの意見交換の機会を設定する。  評価指標 <b>【14-2-①】</b> 多様な広報媒体を活用した積極的な情報発信 <b>【14-2-②】</b> 相互理解を目的としたステークホルダーとの定期的な意見交換	○本学学生が広報スタッフを担う制度を導入し、TwitterやInstagram、YouTubeをはじめとしたSNSを活用した情報発信を行った。  ○報道機関を対象とした記者懇談会を令和4年7月及び令和4年12月に実施した。  ○本学学生の保護者を対象とした地区別懇談会を令和4年11月にオンラインで実施した。  ○公募による一般市民を含む、室蘭近隣の自治体、教育界等からの委員10名を招いた市民懇談会を令和5年2月に実施した。

中期 目 標	<b>V その他業務運営に関する重要事項</b> <b>【15】 AI・RPA（Robotic Process Automation）をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。②⑤</b>
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期計画	計画の実施状況等
<b>【15-1】</b> 第3期中期目標期間にデジタル技術を活用した業務の効率化として導入したRPAを発展させ、更なる業務の効率化及びデータ分析に基づく業務運営体制の強化を目指した、迅速かつ柔軟性のあるデジタル・キャンパスを推進する。そのために、セキュアな情報基盤を整備し、デジタル・キャンパスを推進する組織を設置・運用する。  評価指標 <b>【15-1-①】</b> チャットボットをはじめとした業務効率化関連事業数を新たに3件以上導入する <b>【15-1-②】</b> セキュアな情報基盤を維持する	○迅速かつ柔軟性のあるデジタル・キャンパスを推進するため、デジタル・キャンパス推進基本方針を策定するとともに、デジタル・キャンパス推進室を設置した。  ○RPAの普及拡大に向けて、RPAハンズオンセミナー及びBPR推進セミナーを企画し、令和4年5月及び12月に実施した。  ○日本人新入生向け、外国人留学生新入生向けチャットボットを4月から運用開始したほか、寄附金や検定料等のクレジットカード払いへの対応や、統合データ基盤（IRデータの蓄積・分析プラットフォーム）環境の構築を行った。  ○令和5年3月に国際認証「情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)」及び「事業継続マネジメントシステム(BCMS)」のサーベイランス審査を受審し、不適合事項は0件だった。